

岡山県感染症週報 2018年 第50週 (12月10日～12月16日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』・『食中毒(ノロウイルス)注意報』発令中です

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2018年 第50週(12/10～12/16)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第49週	2類感染症	結核	1名(70代 女)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(90代 男)
		百日咳	1名(30代 女)
第50週	2類感染症	結核	6名(70代 男 2名、80代 男 2名・女 1名、90代 女 1名)
	4類感染症	レジオネラ症	1名(60代 男)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(90代 男)
		侵襲性肺炎球菌感染症	2名(70代 男 1名、80代 男 1名)
		梅毒	1名(20代 女)
		百日咳	8名(幼児 女 2名、小学生 男 2名・女 3名、中学生 女 1名)
		風しん	1名(50代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○インフルエンザは、県全体で126名(定点あたり1.17→1.50人)の報告があり、前週から増加しました。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で128名(定点あたり2.13→2.37人)の報告があり、前週からわずかに増加しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で462名(定点あたり7.69→8.56人)の報告があり、前週から増加しました。

【第51週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が3施設でありました(12月17日～18日)。

○感染性胃腸炎によるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました(12月19日)。

- 風しん**は、第50週に1名の報告があり、2018年第50週までの累計報告数が26名となりました。風しんは、妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、注意が必要です。また、成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。全国や岡山県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
- 百日咳**は、第50週に8名の報告があり、2018年第50週までで175名の報告がありました。年代別では、小学生(76名)、6歳以下の乳幼児(36名)、中学生(21名)が多くなっていますが、20歳以上の成人(37名)でも多く報告されています。地域別では、備中地域(66名)、倉敷市(46名)、岡山市(43名)の順に報告数が多くなっています。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため「[咳エチケット](#)」を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
- 梅毒**は、第50週に1名の報告があり、2018年第50週までの累計報告数が152名となりました。中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代および20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。また、全国では先天梅毒の報告が相次いでいます(第49週までで昨年5名、今年16名)。梅毒の詳細は、「[コラム](#)」をご覧ください。
- インフルエンザ**は、県全体で126名(定点あたり1.17→1.50人)の報告があり、前週から増加しました。岡山県は、12月13日に「[インフルエンザ注意報](#)」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、真庭地域(7.33人)、備北地域(4.17人)、美作地域(2.40人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ「[2018/2019年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!](#)」をご覧ください。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で128名(定点あたり2.13→2.37人)の報告があり、前週からわずかに増加しました。地域別では、倉敷市(3.64人)、真庭地域(3.50人)、備前地域(2.70人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。

6. **感染性胃腸炎**は、県全体で462名（定点あたり7.69→8.56人）の報告があり、前週から増加しました。地域別では、備北地域（10.25人）、岡山市（10.07人）、倉敷市（9.82人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県は12月13日に「**食中毒(ノロウイルス)注意報**」を発令し、食中毒予防を呼びかけています。県内の発生状況など詳しくは、「**感染性胃腸炎週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2018/2019年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↑	★★	RSウイルス感染症	↑	★
咽頭結膜熱	↑	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★★
感染性胃腸炎	↑	★★★★	水痘	↓	★
手足口病	↑	★★	伝染性紅斑	↑	★
突発性発疹	↑	★	ヘルパンギーナ	↑	★
流行性耳下腺炎	↑	★	急性出血性結膜炎	↓	
流行性角結膜炎	↑	★	細菌性髄膜炎	↑	
無菌性髄膜炎	↑		マイコプラズマ肺炎	↑	★
クラミジア肺炎	↑		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↑	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↑：増加 →：ほぼ増減なし ↓：減少 ↓：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

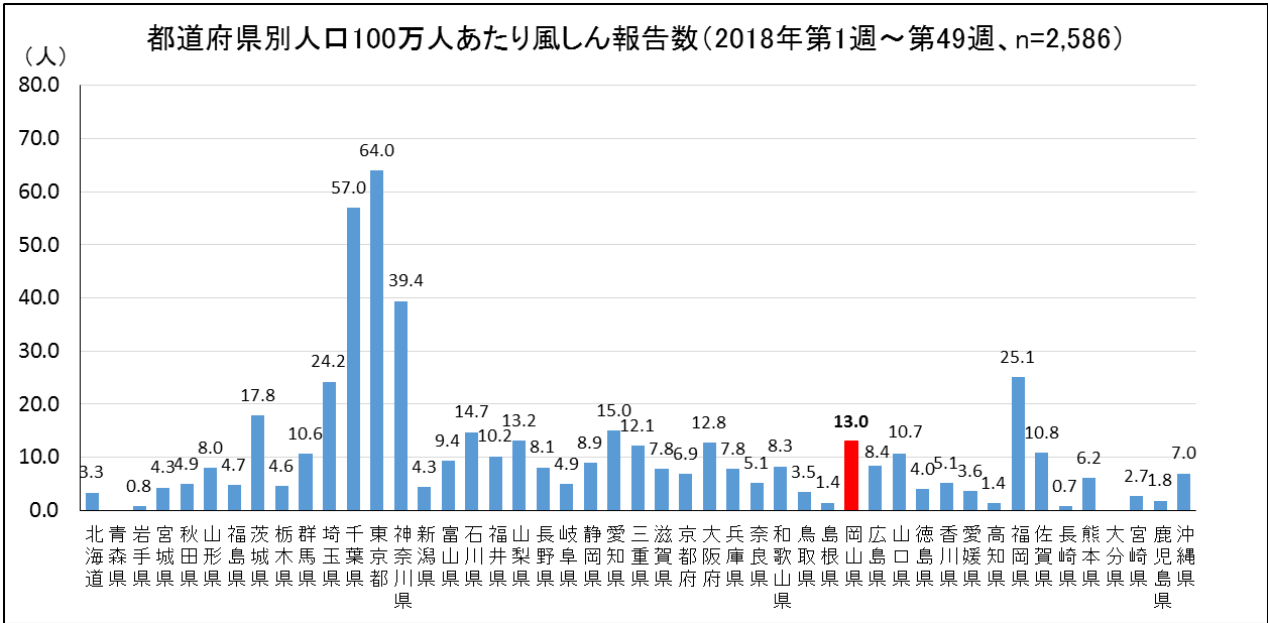
感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

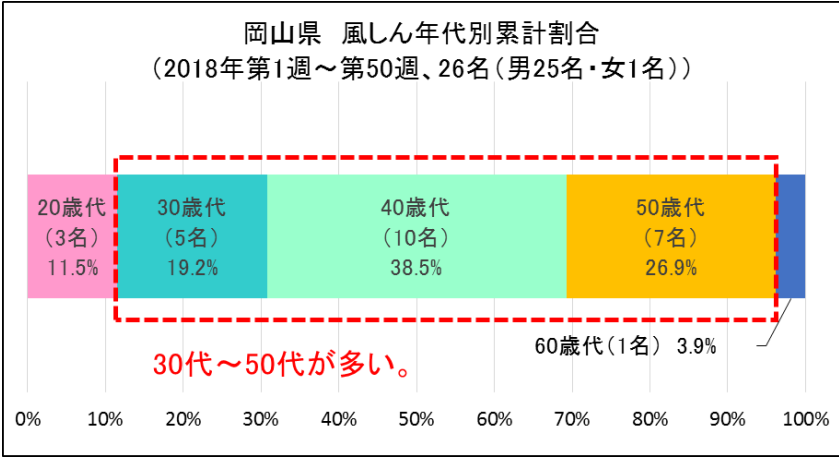
風しんは、全国に感染が拡大しています（第49週まで：2,586名、第50週まで（速報値）：2,713名。直近3年間では年間93～163名）。中国・四国地方では、第50週まで（速報値）で岡山県および広島県：各26名、山口県：19名、香川県および愛媛県：各5名などが報告されています。

また患者は、男性が女性の4.3倍と多くを占めており、中でも抗体価が低いとされる、30代～50代の男性が中心となっています（男性患者全体の約8割）。

2018年第49週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で20.3人となり、東京都が64.0人で最も多く、次いで千葉県57.0人、神奈川県39.4人、福岡県25.1人、埼玉県24.2人と続いています。岡山県は、人口100万人あたり13.0人となり、全国で10番目に多く、中国・四国地方では最も多くなっています。



岡山県では、2018年第50週までの累計で26名(男性25名、女性1名)の報告があり、年代別では40歳代が10名、50歳代が7名、30歳代が5名の順で多く報告されています。事業所における集団発症事例の報告もありました。



●先天性風しん症候群とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。

●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。
岡山県でも、全国と同様に、30歳代～50歳代の男性が患者のほとんどを占めており、大きな問題です。予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「風しんの予防について」



©岡山県「ももっち・うらっち」

風しんの予防について

岡山県で風しん患者が発生しています！

●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。

なお、妊娠中の女性は予防接種を受けることができないため、特に流行地域においては、抗体を持たない、または抗体価の低い妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えましょう。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。

検査の詳細は、下記のホームページ

[風しんの無料抗体検査が受けられます\(岡山県健康推進課\)](#)

[風しんの無料抗体検査\(岡山市\)](#)

[風しん抗体検査について\(倉敷市\)](#)

をご覧ください。

生まれてくる赤ちゃんのために
風しん抗体検査を受けましょう

岡山県(岡山市・倉敷市以外)、岡山市・倉敷市では、**風しん抗体検査**を**無料**で実施しています。

妊娠初期の妊婦さんが風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに影響することがあります。風しんは予防接種で予防できます。

無料抗体検査対象者で、罹患歴又は予防接種歴が明らかでない方は、予防接種が必要かどうかを調べるため、抗体検査を受けましょう。
特に**昭和37年(1962)年～平成元年(1989)年産まれた男性と昭和34年(1959)年～平成元年(1989)年産まれた女性**は、十分な免疫がないことが多いとされています。

無料抗体検査対象者

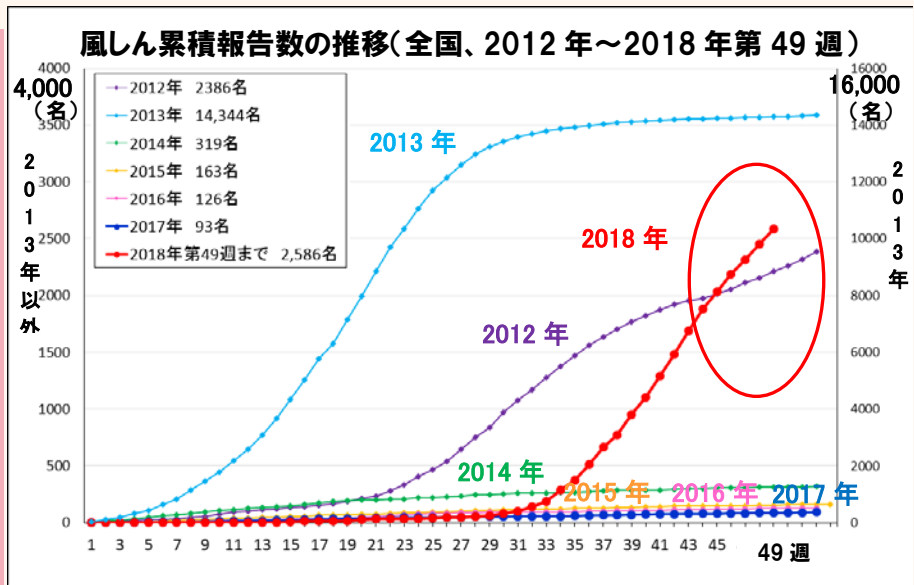
岡山県内に居住し、次のいずれかに該当する方
(1) 風疹を罹患するなどの病歴者
(2) 風しんの抗体価が低い妊婦の産後者
※ 1歳未満の方、妊娠したとき風疹を患ったことがある方、過去に風しんの予防接種歴がある方、風疹で罹患歴を認めたことがある方は対象外です。

検査するもの

○ 住所がわかるときの書類(健康保険証、運転免許証など)
○ 「風しん抗体価が低い妊婦の産後者」は、妊婦の風しん抗体価が確認できる書類(健康保険証、産後経過記録簿など)
○ 妊婦であること
○ 検査できる期間(産後)については、詳しくは各実施医療機関にお問い合わせください。

岡山県・倉敷市以外に居住する方は、風しんの無料抗体検査 岡山県 岡山県健康推進課 岡山県健康推進課 岡山県健康推進課 岡山県健康推進課
岡山県健康推進課 岡山県健康推進課 岡山県健康推進課 岡山県健康推進課 岡山県健康推進課

岡山県健康推進課 066-226-7331



[生まれてくる赤ちゃんのために風しん抗体検査を受けましょう\(岡山県健康推進課\)](#)

詳細は・・・ (国立感染症研究所ホームページより)

[風疹急増に関する緊急情報\(2018\)\(国立感染症研究所\)](#)
[風疹とは\(国立感染症研究所\)](#)
[風しんについて\(厚生労働省\)](#)

年末年始に海外へ渡航される方へ

海外には、日本国内に存在しない感染症が多くあります。
海外に渡航される場合には、渡航先の感染症に対する予防対策
が必要です。



©岡山県「ももっち・うらっち」

出発前の注意

- ・ 感染症に対する正しい知識と予防に関する対策を身に付けましょう。
- ・ 渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。
- ・ これまで受けた予防接種について確認し、予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を受けましょう。

旅行中の注意

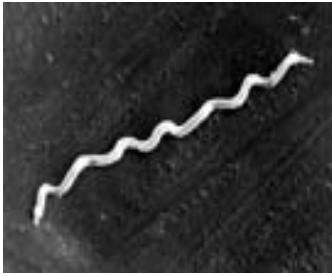
- ・ 生水、氷、カットフルーツ、サラダなど、火が通っていないものを飲食することは避けましょう。
- ・ 肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・ 動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。
（狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。）
- ・ 帰宅後は、しっかり手洗いをしましょう。

帰国した後に

- ・ 帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港または海港の検疫所に相談してください。
- ・ 帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

海外へ渡航される方に向けた詳細な感染症情報が厚生労働省検疫所のホームページに掲載されています。

[海外へ渡航される皆様へ！（厚生労働省検疫所 FORTH）](#)



梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真
(国立感染症研究所 HP より)

セーフセックスをこころがけて、 梅毒（性感染症）に 気をつけましょう！

●岡山県で梅毒の患者が急増しています

梅毒患者の報告数は、近年、全国的に増加しており、1970 年以來 48 年ぶりに 6,000 名を超えました（第 49 週まで：昨年 5,495 名 ⇒ 今年 6,505 名）。

昨年、岡山県では梅毒患者の報告数が急増しましたが、今年も同様に多くの患者が報告されています（第 50 週まで：昨年 165 名 ⇒ 今年 152 名）。中でも 10 代・20 代の女性患者の増加に注意が必要な状況です（第 50 週まで：昨年 患者全体の 14.5 % ⇒ 今年 22.4%）。

●「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたします（早期顕症梅毒）。一方症状の見られない時期もあり（無症候）、多様な症状を示すのが特徴です。進行により心血管系や、脳・脊髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障がいをもたらします（晩期顕症梅毒）。また妊婦の感染では胎児に様々な障がいをきたします（先天梅毒）。

●男女とも早期で見つかることが多いですが、女性では無症候も多くみられます！

また、全国では先天梅毒の発生報告が相次いでいます！

（第 49 週まで：昨年 5 名 ⇒ 今年 16 名）

●梅毒以外にも注意すべき性感染症はあります

性行為を通じ感染する感染症は梅毒以外にも、例えば HIV、クラミジア、ヘルペス、淋病など多くあります。これらの感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

岡山県の保健所・支所では梅毒等の性感染症検査を無料・匿名で受けることができます！

*岡山県の保健所（岡山市・倉敷市を除く）では、梅毒以外にも HIV・性器クラミジア・B 型肝炎・C 型肝炎の検査も同時に受けることができます。

*検査は無料・匿名で受けることができます。

*通常検査では 1 週間後、迅速検査では 1 時間後に結果をお知らせしています。

*確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3 か月たって検査することをおすすめします。

*事前に電話で予約が必要です（保健所によっては予約不要の日時もあります）。

○県内 11 か所の保健所・支所における性感染症等検査の日時、予約方法はこちらから

→ [【平成 30 年度 保健所における HIV 検査・性感染症検査・肝炎検査日時】](#)

[日本の梅毒症例の動向について（国立感染症研究所）](#)

[ストップ！梅毒（日本性感染症学会）](#)

インフルエンザ週報 2018年 第50週 (12月10日～12月16日)

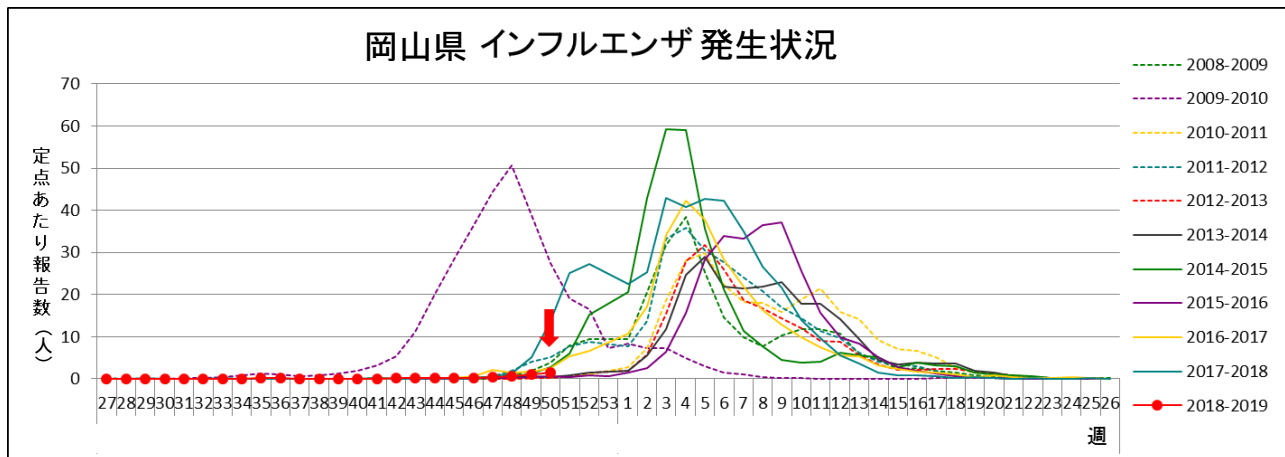
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で126名（定点あたり1.50人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が3施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者2名の報告がありました。

【第51週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が3施設でありました（12月17日～18日）。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で126名（定点あたり1.17 → 1.50人）の報告があり、前週から増加しました。岡山県は、12月13日に「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、真庭地域（7.33人）、備北地域（4.17人）、美作地域（2.40人）、倉敷市（1.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況に注意するとともに、『帰宅後や食事前の手洗いを徹底する』、『人混みを避ける』、『マスクを着用する』、『十分な睡眠を取る』など、体調管理にも留意し、感染予防に努めましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

◆インフルエンザ流行シーズンです。感染予防に努めましょう。

【 予 防 】

- ・ 帰宅後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- ・ 人混みに入る場合は、マスクを着用しましょう。特に高齢者や慢性疾患を持っている人などは、人混みを避けましょう。
- ・ 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- ・ 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度（50～60%）を保ちましょう。
- ・ 予防接種を受けることをご検討ください。

【 かかったかな？ という時には 】

- ・ 早めに医療機関を受診しましょう。（受診時はマスクを着用してください。）
- ・ 人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等へ行かないようにしましょう。
- ・ 周りの人にうつさないように、『**咳エチケット**』を心がけましょう。

『**咳エチケット**』 ～ 咳やくしゃみをするときは ～

1. 周囲の人からなるべく離れましょう。
 2. 他の人から顔をそらせ、ティッシュなどで口と鼻を覆いましょう。
 3. 口と鼻を覆った手は、石鹸で丁寧に洗いましょう。
 4. 咳やくしゃみが出ている間は、マスクを着用しましょう。
- ・ 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	126	↑	備 中	患者数	5	→
	定点あたり	1.50			定点あたり	0.42	
岡山市	患者数	16	↑	備 北	患者数	25	↑
	定点あたり	0.73			定点あたり	4.17	
倉敷市	患者数	24	↑	真 庭	患者数	22	↑
	定点あたり	1.50			定点あたり	7.33	
備 前	患者数	10	↑	美 作	患者数	24	↑
	定点あたり	0.67			定点あたり	2.40	

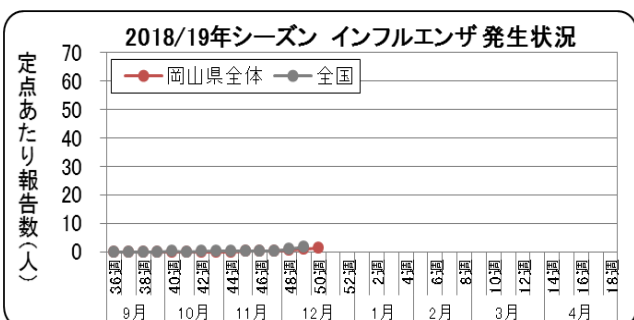
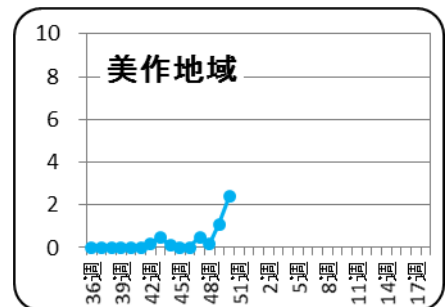
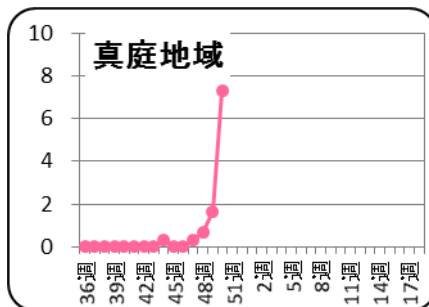
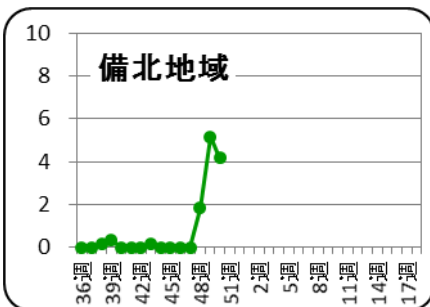
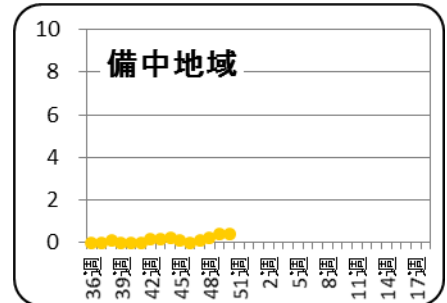
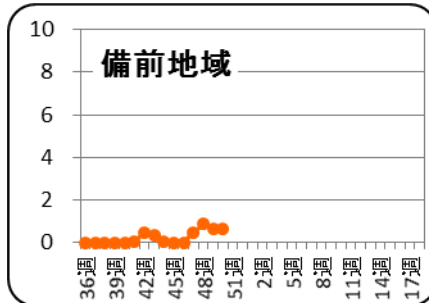
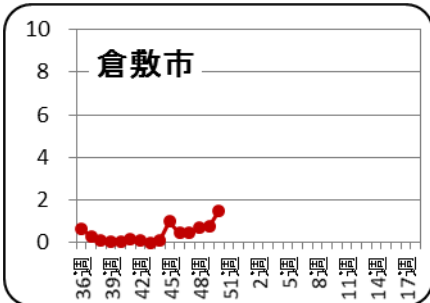
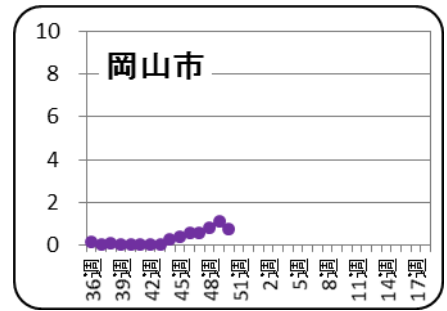
【記号の説明】 前週からの推移 ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0

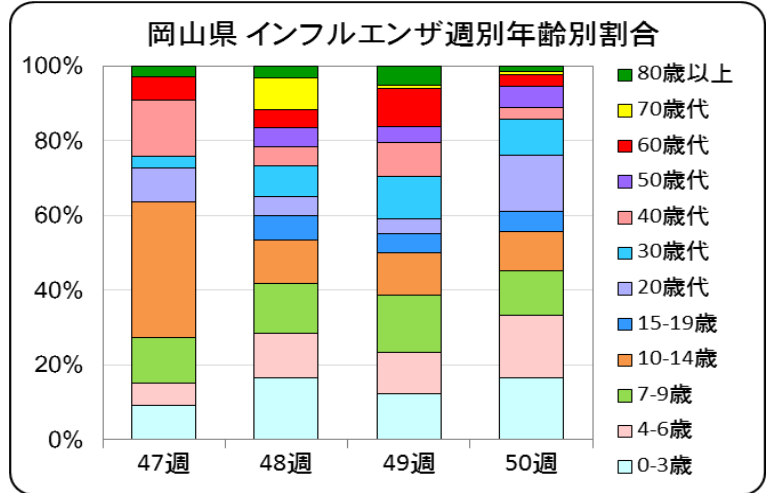
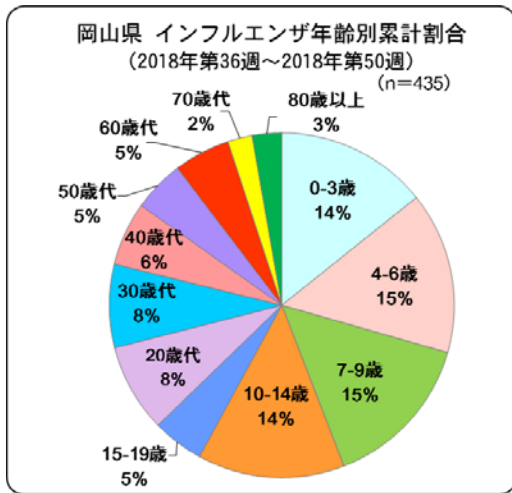


全国集計第49週（12/3～12/9）速報値によると、全国の定点あたり報告数は1.70人となり、前週（0.93人）から増加しました。都道府県別では、香川県（4.00人）、北海道（3.96人）、愛知県（3.43人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。28都道府県で流行開始の目安（定点あたり1.0人）を超えました。

[インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）](#)

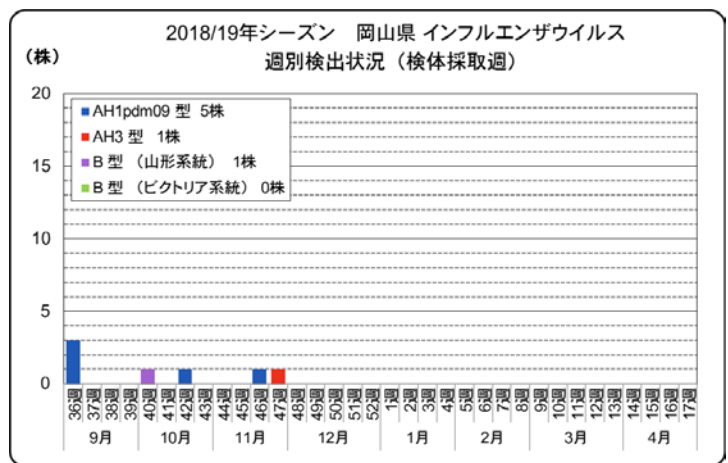
2. 年齢別発生状況

0歳から14歳までが多く、各年齢層で14~15%の報告となっていますが、広い年齢層で報告されています。



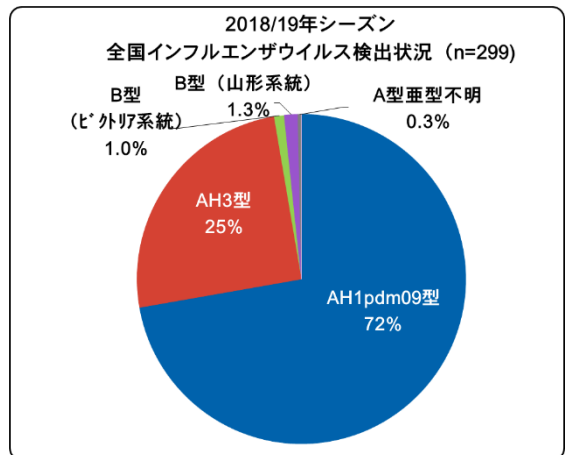
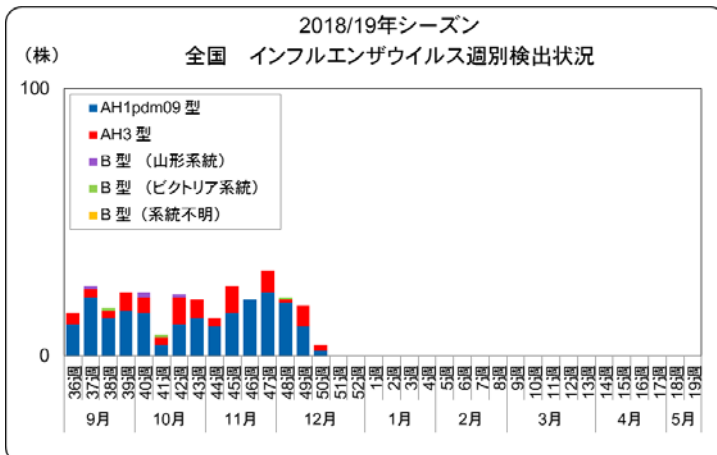
3. インフルエンザウイルス検出状況

第50週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは7株で、その内訳は、AH1pdm09型5株、AH3型1株、B型（山形系統）1株となっています。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型が216株、AH3型が75株、B型が7株（山形系統4株・ビクトリア系統3株）、A型亜型不明1株となっています（12月14日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、3施設でありました。

【第50週 臨時休業施設数】

▽津山市 1 ▽総社市 1 ▽美作市 1

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	77	225	69	181	3	15	1	2	2	3	0	10	H30.9.26
岡山市	—	86	—	57	—	7	—	—	—	—	—	7	H30.9.26
倉敷市	—	50	—	46	—	3	—	1	—	1	—	1	H30.11.12
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	8	8	8	8	1	1	—	—	1	1	—	—	H30.12.13
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	69	81	61	70	2	4	1	1	1	1	—	2	H30.12.6

2) 臨時休業施設数の内訳

第50週：3施設

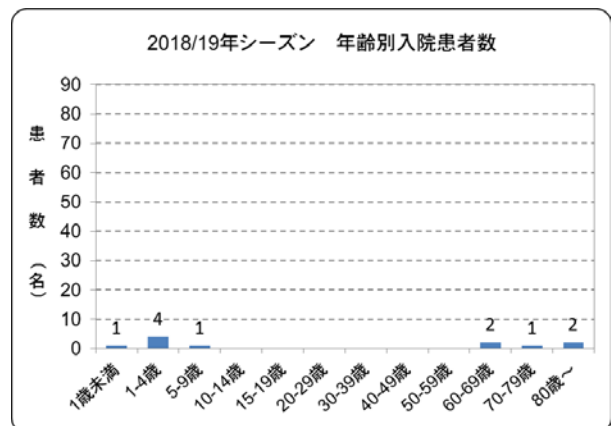
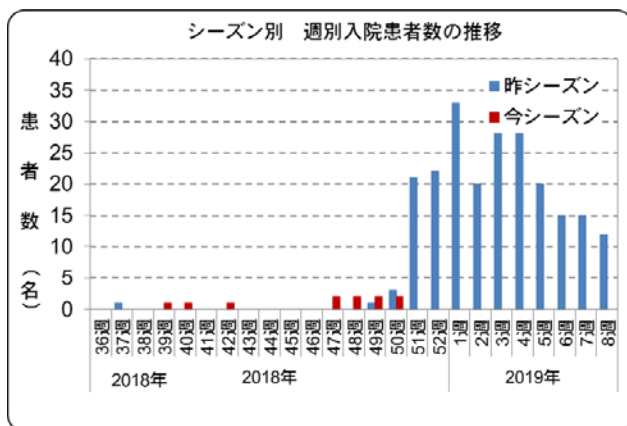
累計：15施設

	保育園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	4	3	9	—	2	—	—	—	—

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、2名（1歳未満 1名、70-79歳 1名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうととしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 50 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1										1		2
ICU入室 *													
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *													
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず	1										1		2

* 重複あり

【2018年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数	1	4	1							2	1	2	11
ICU入室 *													
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *												1	1
頭部 MRI 検査(予定含) *												1	1
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず	1	4	1							2	1	1	10

* 重複あり

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

[平成 30 年度 今冬のインフルエンザ総合対策について \(厚生労働省\)](#)

[インフルエンザ 関連情報 2018/2019 シーズン インフルエンザワクチン株 \(国立感染症研究所\)](#)

感染性胃腸炎週報 2018年 第50週 (12月10日～12月16日)

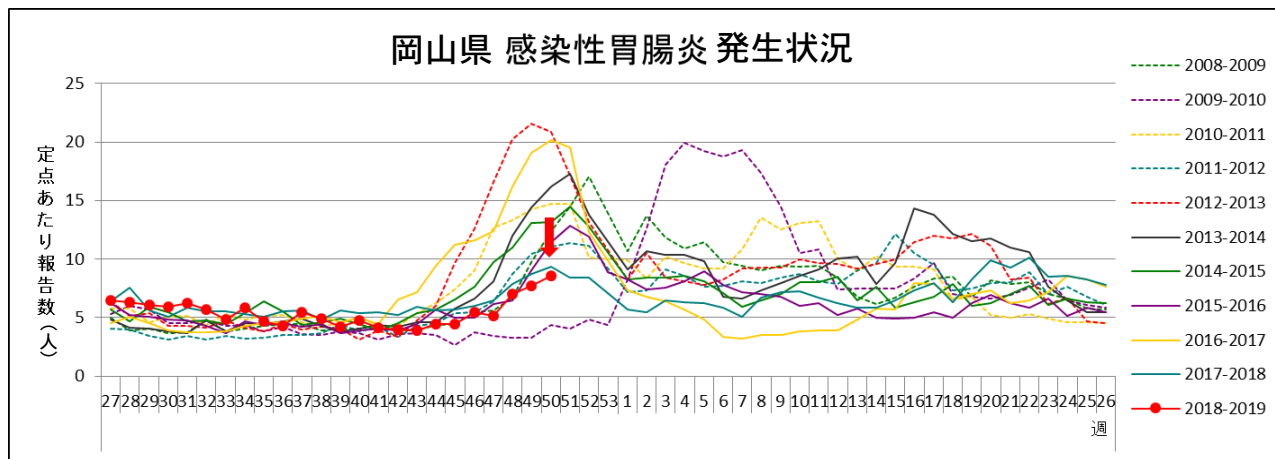
岡山県は『食中毒（ノロウイルス）注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で462名（定点あたり8.56人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。

【第51週 速報】

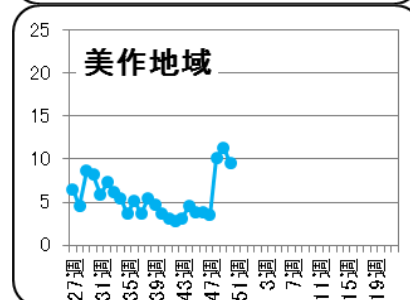
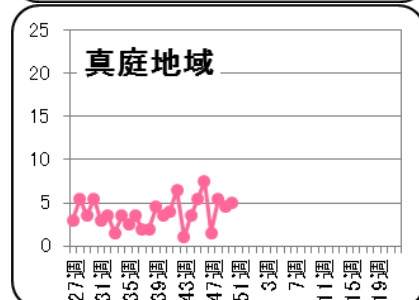
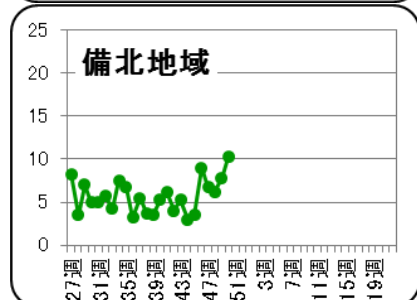
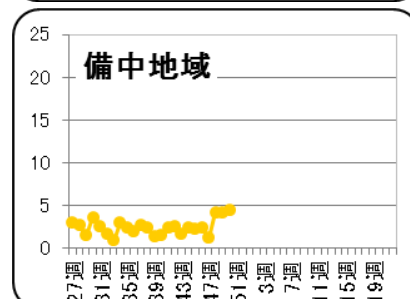
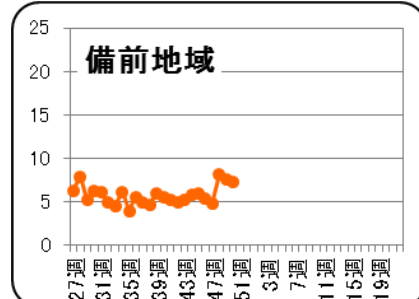
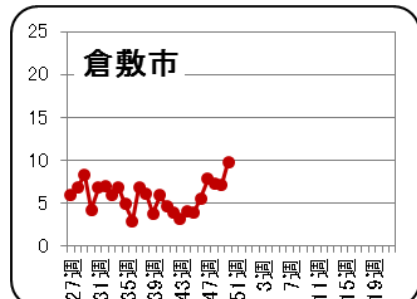
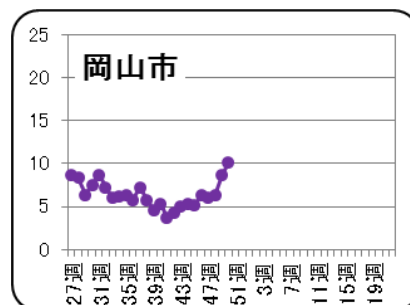
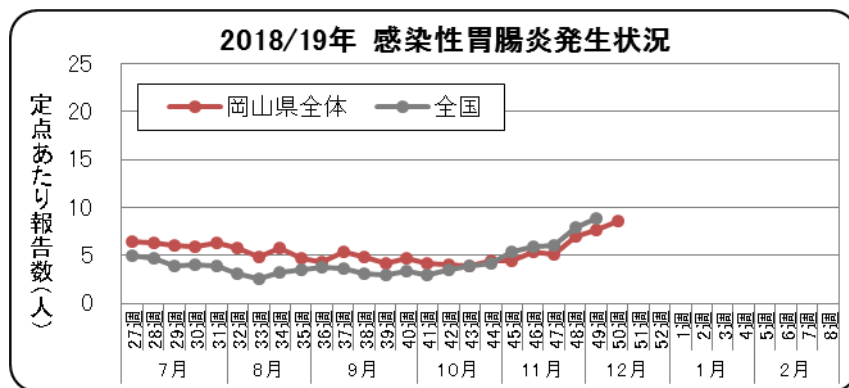
○感染性胃腸炎によるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました（12月19日）。

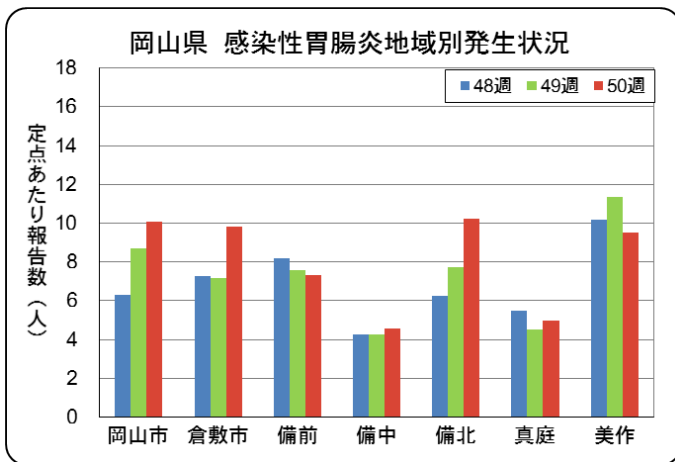


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で462名（定点あたり7.69→8.56人）の報告があり、前週から増加しました。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。特に乳幼児や高齢者は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

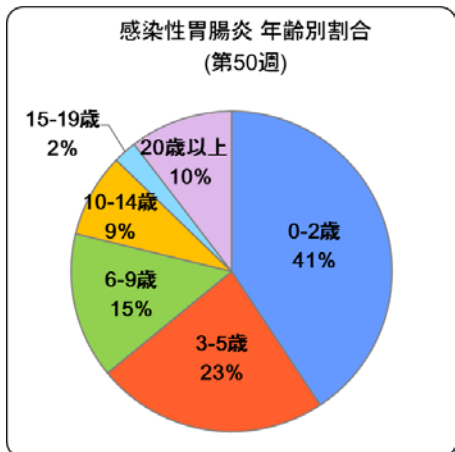
◆地域別・年齢別発生状況





レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



地域別では、備北地域（10.25人）、岡山市（10.07人）、倉敷市（9.82人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

第50周年齢別割合では、0-2歳 41%、3-5歳 23%、6-9歳 15%の順で高くなっています。

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

<予 防 方 法>

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。

拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水処理または**次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、熱水処理または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85～90℃で90秒間以上)

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。また、アルコールの効果は低いとされています。

[○ノロウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

[○ノロウイルス感染症とその対応・予防 \(家庭等一般の方々へ\) \(国立感染症研究所\)](#)

保健所別報告患者数 2018年 50週(定点把握)

(2018/12/10～2018/12/16)

2018年12月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	126	1.50	16	0.73	24	1.50	10	0.67	5	0.42	25	4.17	22	7.33	24	2.40
RSウイルス感染症	17	0.31	8	0.57	5	0.45	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	19	0.35	1	0.07	6	0.55	-	-	1	0.14	-	-	2	1.00	9	1.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	128	2.37	29	2.07	40	3.64	27	2.70	6	0.86	5	1.25	7	3.50	14	2.33
感染性胃腸炎	462	8.56	141	10.07	108	9.82	73	7.30	32	4.57	41	10.25	10	5.00	57	9.50
水痘	13	0.24	5	0.36	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	24	0.44	16	1.14	2	0.18	1	0.10	2	0.29	3	0.75	-	-	-	-
伝染性紅斑	13	0.24	3	0.21	2	0.18	1	0.10	4	0.57	3	0.75	-	-	-	-
突発性発疹	18	0.33	12	0.86	5	0.45	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
ヘルパンギーナ	9	0.17	7	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	7	0.13	5	0.36	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	4	0.80	1	0.25	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	0.60	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 50週(発生レベル設定疾患) (2018/12/10~2018/12/16)

2018年12月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	126	1.50	16	0.73	24	1.50	10	0.67	5	0.42	25	4.17	22	7.33	24	2.40
咽頭結膜熱	19	0.35	1	0.07	6	0.55	-	-	1	0.14	-	-	2	1.00	9	1.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	128	2.37	29	2.07	40	3.64	27	2.70	6	0.86	5	1.25	7	3.50	14	2.33
感染性胃腸炎	462	8.56	141	10.07	108	9.82	73	7.30	32	4.57	41	10.25	10	5.00	57	9.50
水痘	13	0.24	5	0.36	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	24	0.44	16	1.14	2	0.18	1	0.10	2	0.29	3	0.75	-	-	-	-
伝染性紅斑	13	0.24	3	0.21	2	0.18	1	0.10	4	0.57	3	0.75	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	9	0.17	7	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	7	0.13	5	0.36	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	4	0.80	1	0.25	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染区症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2018年 第50週 2018/12/10～2018/12/16)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	126	-	3	5	6	7	10	5	6	5	7	3	13	7	19	12	4	7	4	1	2

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	17	4	2	4	3	2	1	1	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	19	-	1	5	3	4	-	2	-	-	2	1	1	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	128	1	-	3	7	20	13	13	18	13	15	6	13	1	5
感染性胃腸炎	462	8	30	87	63	39	35	34	24	18	11	15	39	11	48
水痘	13	-	1	1	-	3	1	2	1	1	1	-	2	-	-
手足口病	24	-	1	8	3	7	-	1	-	1	-	-	1	1	1
伝染性紅斑	13	-	-	1	-	2	-	3	2	2	2	1	-	-	-
突発性発疹	18	-	7	10	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	9	-	1	3	2	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	7	-	-	-	1	2	-	-	-	1	-	1	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

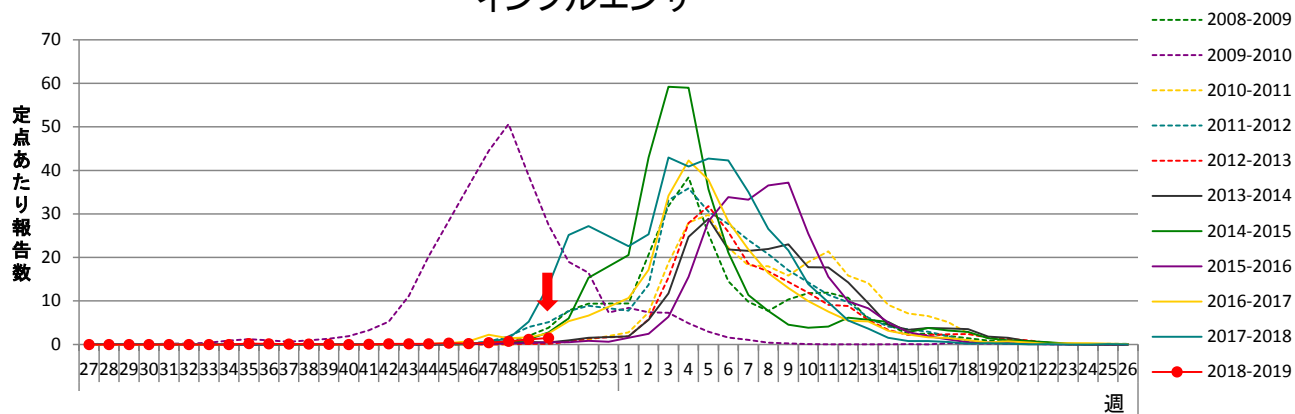
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

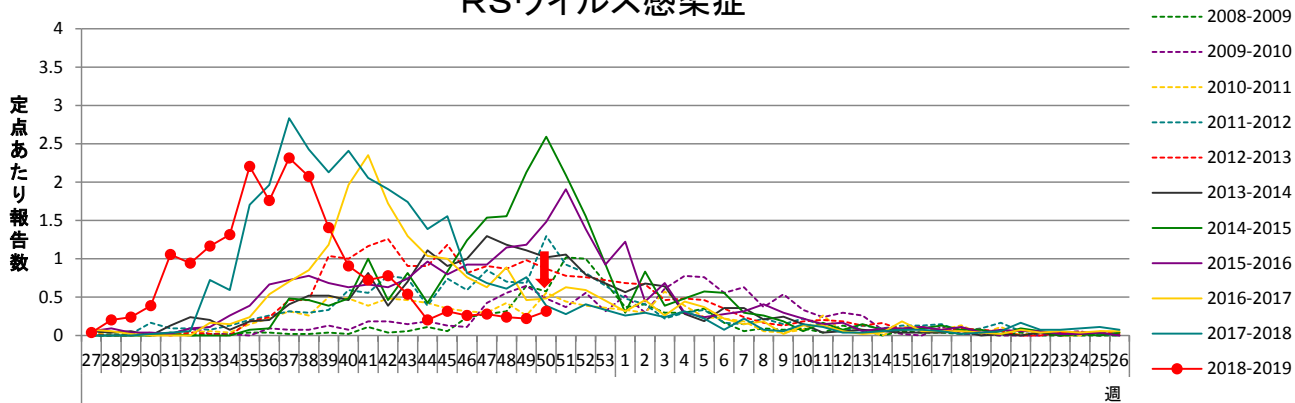
2018年 50週

分類	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	6	316	370	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	-	16	3	腸管出血性大腸菌感染症	-	70	70
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサナル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	2	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	5	7
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	78	30
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	15	22	ウイルス性肝炎	-	5	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	25
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	3	-	急性脳炎	-	6	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	3	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	14	9	後天性免疫不全症候群	-	17	22
ジアルジア症		-	1	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-
侵襲性肺炎球菌感染症		2	43	36	水痘(入院例に限る。)	-	3	6	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		1	152	172	播種性クリプトコックス症	-	2	1	破傷風	-	2	-
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	7	百日咳	8	175	-
風しん		1	26	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

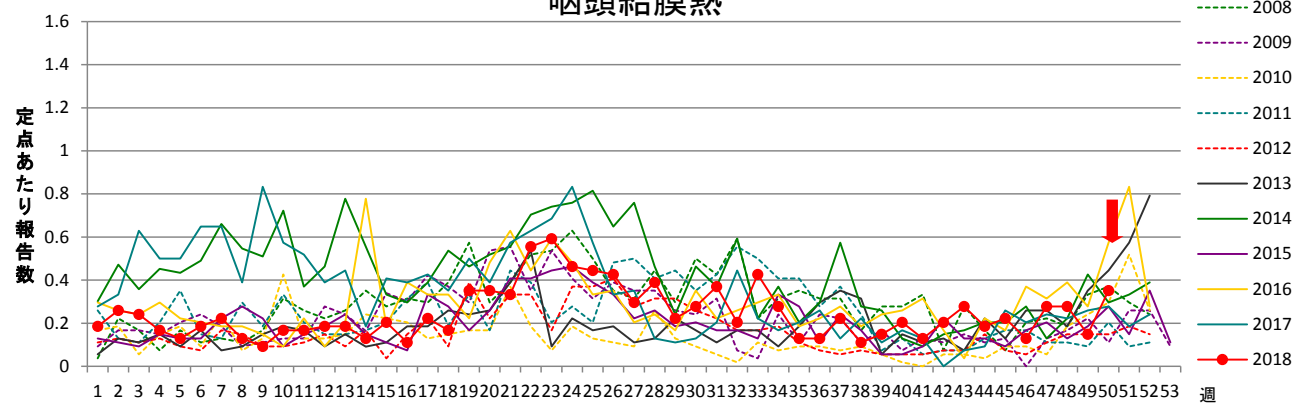
インフルエンザ



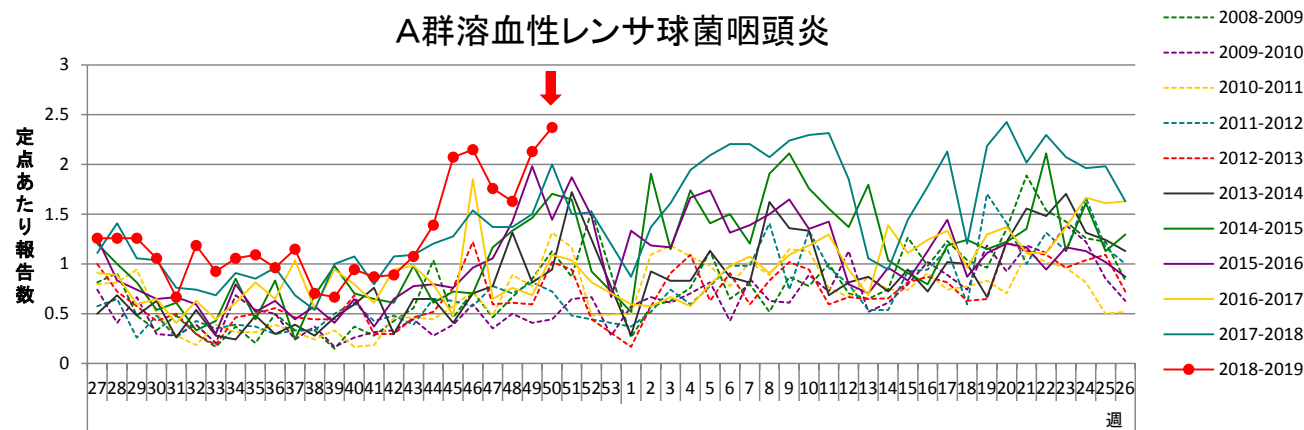
RSウイルス感染症



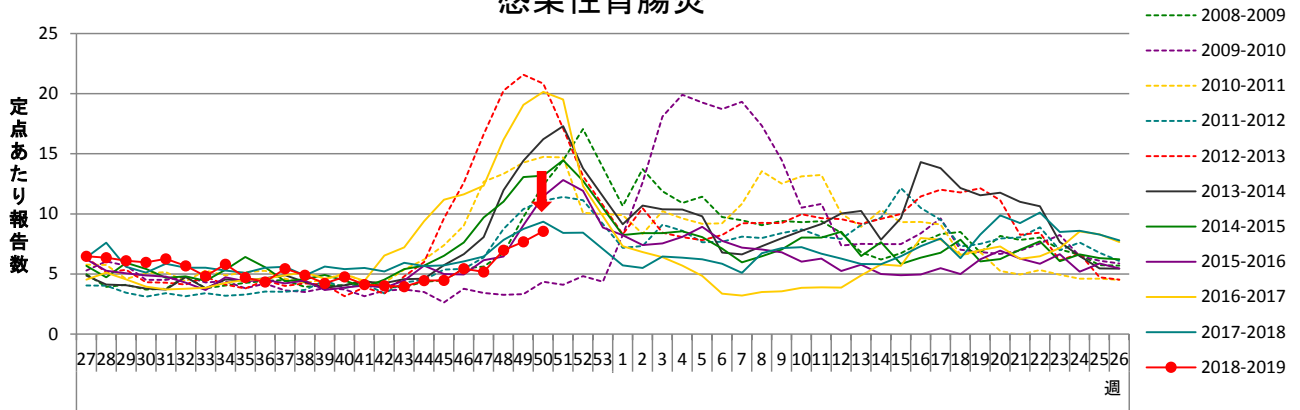
咽頭結膜熱



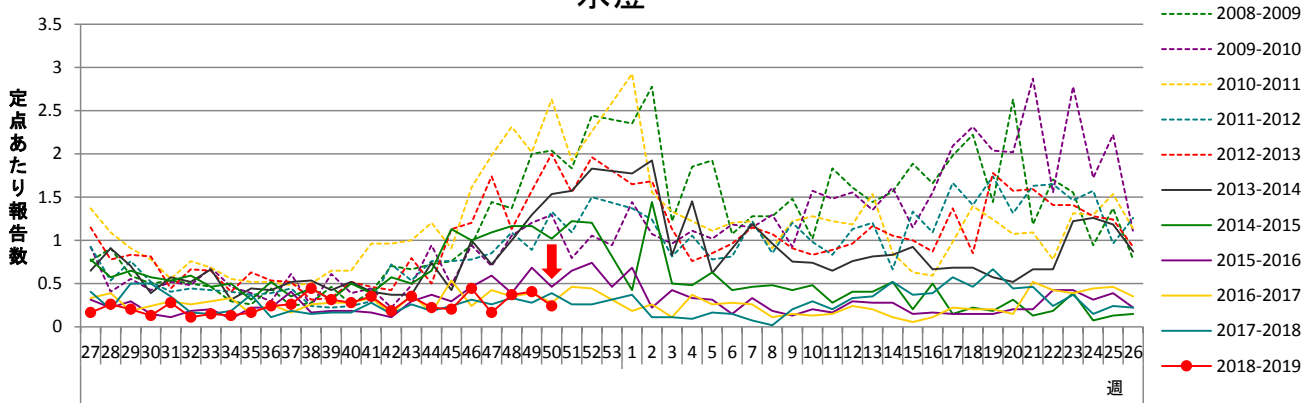
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



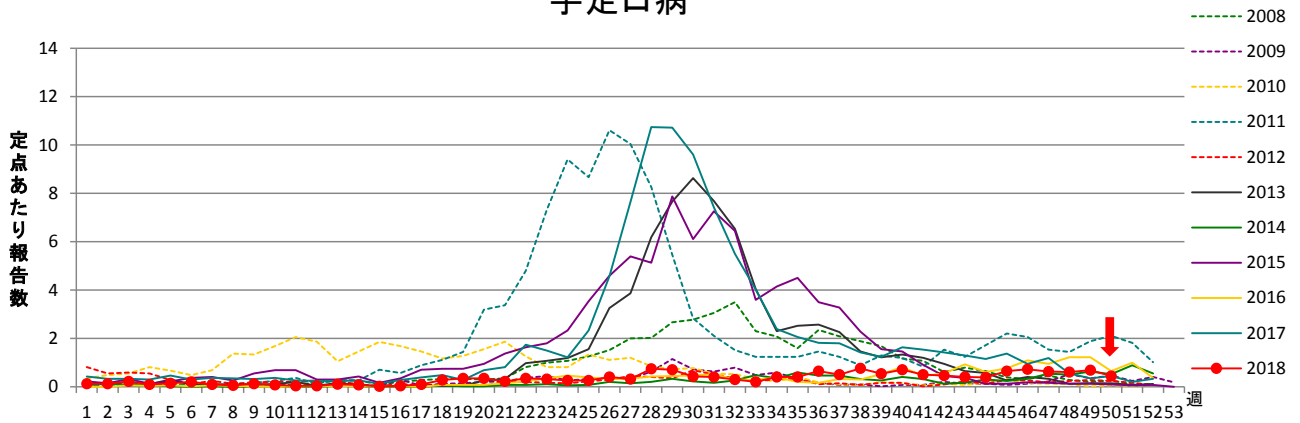
感染性胃腸炎



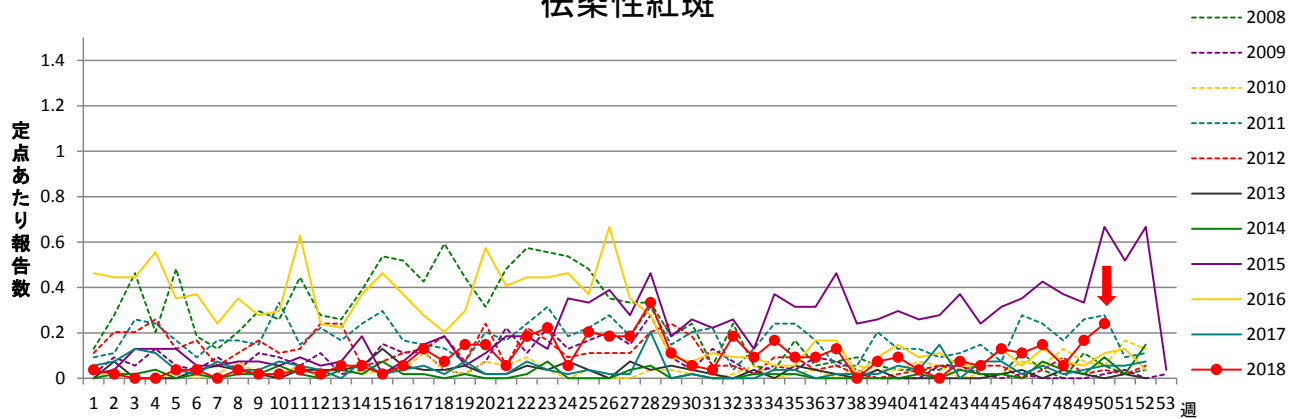
水痘



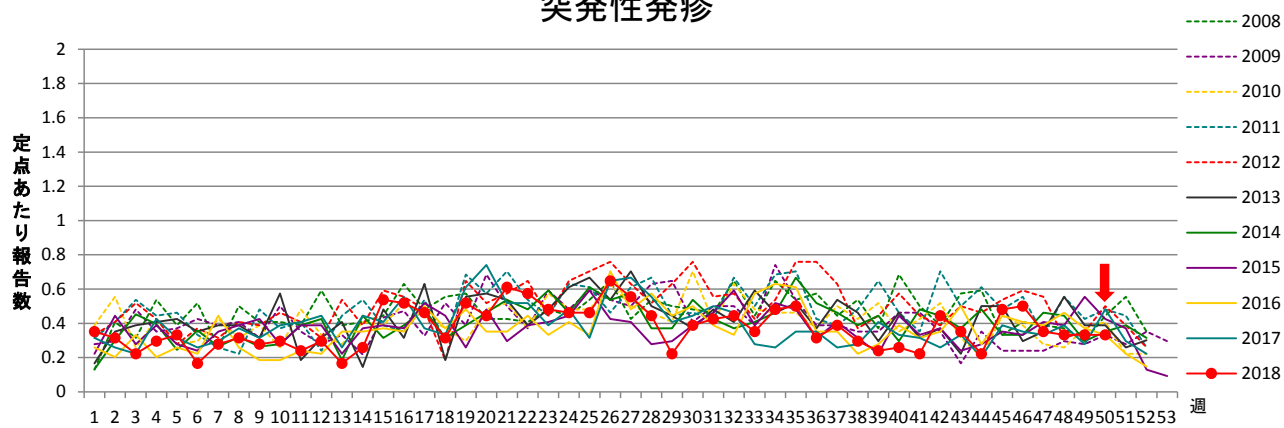
手足口病



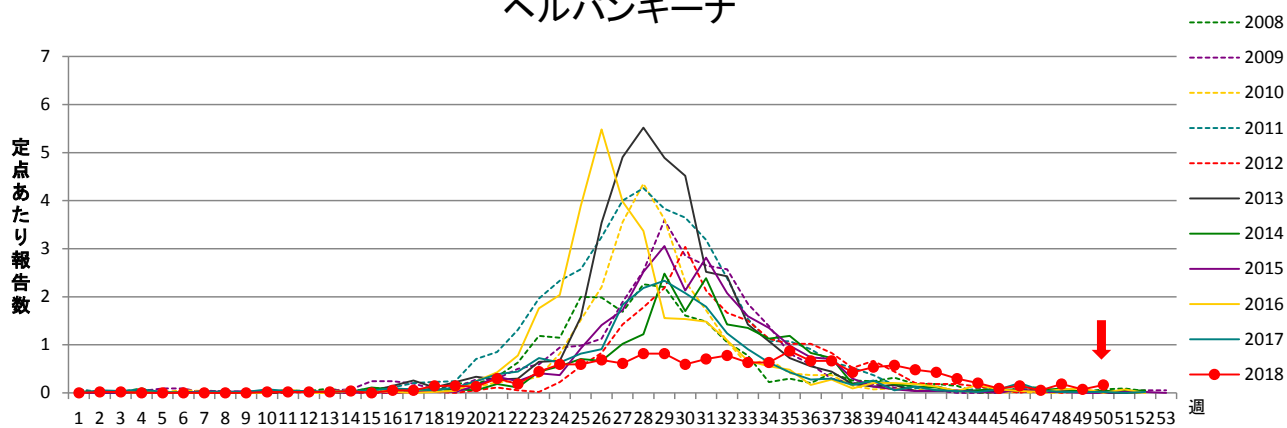
伝染性紅斑



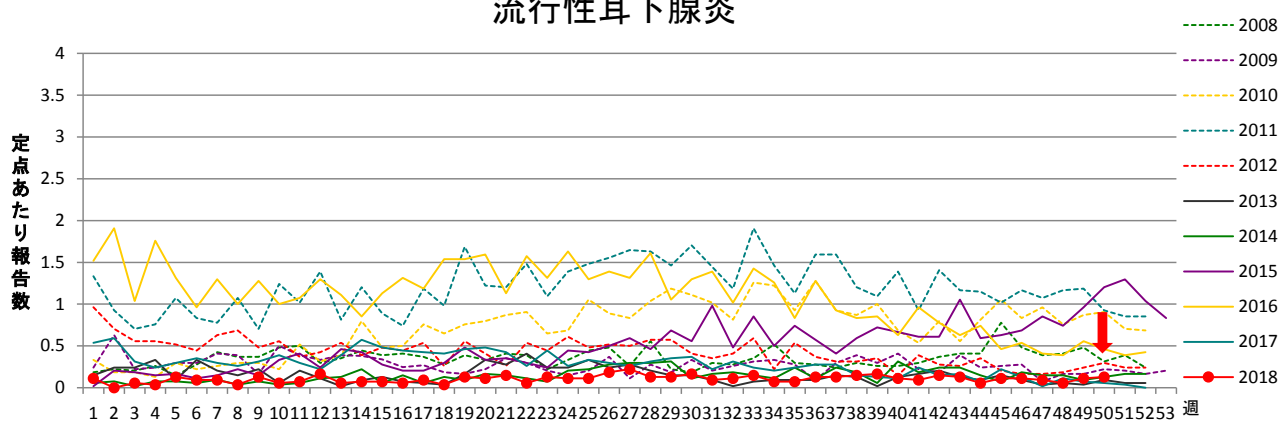
突発性発疹



ヘルパンギーナ



流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

